

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	令和3年11月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&JigyoNoCd=4590100493-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①前年度から引き続いてのコロナ禍の中で家族や知人との面会に制限を設けることになったが、その中でも居室やホールの窓越しでの面会や、電話での会話などを行うことで可能な限り外部との関わりを継続できるようにしている。
 ②その日の食事メニューを利用者と相談して決めたり、季節ごとのイベントの準備の一部を利用者と一緒に行うなど利用者と職員が共に家庭的な雰囲気の中で穏やかに日々を過ごすことができる取り組みを行っている。
 ③職員全員で利用者それぞれの体調等の情報を共有しながら、利用者個々人の状況に合わせて基本的日常生活動作の維持を図るために排泄支援、歩行訓練などの自立支援を実施するとともに、また、月に1回移動販売車での買い物を楽しんだり、全身の体操や、季節ごとの歌を歌うなど様々なレクリエーションのメニューを行い、身体機能の回復にも努めている。
 ④施設が住宅街にあるため、地域の自治会に加入している。コロナ禍ではあるが地域の住民とのコミュニケーションを継続し、回覧板を届けてもらった際や、隣の住宅に回した際などに挨拶を交わし、地域で起こっている出来事などの情報を交換するなど良好な関係が築けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは宮崎市内では高台に位置しており、周辺には住宅が多い。近隣との関係性は良好であり、自治会への加入を行い、班長を努めたこともある。入居者ごとの思いや特性に配慮されており、人格を尊重した対応や言葉かけ、思いや意向の把握に向けた取り組みが行われている。管理者は看護師でもあり、協力医療機関との連携に際して、的確な情報が伝わるように努めている。対応に苦慮するケースには、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用し、本人本位の支援ができるように、職員と協議している。また介護計画の作成において、それぞれの職員からモニタリングを提出してもらい、意見を集約することで、統一した対応ができるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内で職員の目につきやすい数カ所に掲示し理念を共有できるよう努めている。	5年ほど前に職員でキーワードを出し合い、現在の理念を作り上げた。職員会議にて共有を行うように努めており、ケアの場面での支援方法などに活用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板の受け渡しの際などに挨拶を交わしたり、地域で起きた出来事などを話してコミュニケーションを図っている。	自治会活動に加わることで、地域の一員として認識されている。ゴミの出し方について協議したり、赤い羽根募金を通じて民生委員と交流するなど、地域との接点が持たれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であったが運営推進会議に地域の住民の方に参加していただいたり、書面での報告を行い、認知症への理解、当施設での支援の方法等を発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、施設敷地内の屋外での開催や、対面での開催ができない場合は書面報告などを行い、ご家族、地域包括センター職員、地域住民の方へ当施設の取り組みに対しての意見を伺っている。	家族や地域代表者にも参加してもらい、コロナ禍にも繋がりを継続できるようにしている。書面開催時においても、それぞれの視点から意見を聞くことができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は宮崎市主催のケアマネ研修会に、役員として参加し、包括支援センターの職員等と日ごろから連絡を取り合い、協力関係を築くよう努めている。	事業所の状況に応じて、市への相談を行っている。これまでは、勤務体制やケアプランに関することなど相談してきた。過去には生活保護の方への対応などでも協力体制を敷いてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で議題に挙げ全員で共有し、改めて身体拘束について理解を促した。また日々の支援・介助を実施する上で管理者を中心に職員同士で確認し合い身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	言葉かけに配慮し、行動等を制するような伝え方をしていないかなど、業務の中で注意するようにしている。車椅子や手摺の配置などについても協議し、身体拘束にならないケアを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で研修会、勉強会を定期的実施し、言葉遣いなども含めて虐待につながる言動、行動が見られた際に注意し合える環境づくりを行うとともに、職員自身が判断できるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内では、職員向けの積極的な研修会等はない。過去後見人制度を利用して入居者がいたため、理解はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、不備、確認不足による認識の違い等を防ぐため記載内容を一緒に確認しながら十分な説明を行うよう努めている。また、変更点が生じた際は速やかに変更点の説明と同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を表す機会をとして運営推進会議へご家族に参加していただくとともに、会議以外の機会でも連絡を密に行いご家族から意見・要望を引き出すことに努めている。	入居者とのコミュニケーションを重視し、活かせる意見がないか聴くように努めている。家族には封書やメールを活用し、ホームの状況を共有することで、意見や要望を聴きやすい関係性に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者はほぼ毎日施設に出向き、職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を言いやすい関係を築いている。また職員から意見や提案があった際は管理者と相談し、反映できるよう努めている。	待遇面での要望や、処遇改善手当の配布方法など相談しにくい内容でも聴く機会を持つように努めている。業務体制や昼休憩などの、ケアと関連する内容についても、実情に応じて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の努力、実績等を把握し、向上心を持って働けるような職場環境等の整備を実施できるよう施設運営に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所や職員個々のスキルアップへつなげるために必要な研修等に、職員が参加できるよう勤務の調整等のフォローを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会などを通して、同業者とネットワーク作りができるよう努めている。コロナの関係で、例年通りに研修や交流会はできなかったが、研修会の打ち合わせでは、オンラインで会議を行い、意見交換ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前の面談を実施することで本人の要望、不安に思っていることなどを把握し、またその情報を職員全体で共有することで、安全安心かつスムーズに入所できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前及び入所時にご家族の要望、不安に思っていることなどを聞く機会を設けている。また、ご家族が話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望等を踏まえつつ、本人に最も適した支援を提供できるよう努めている。また当事業所での支援が適当ではないと思われる場合は適当と思われる他サービスを提案することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感染対策のため飲食をともにする機会は避けているが、利用者と一緒にイベントを企画したり、料理をしたりして、共に過ごし支えあう関係でいられるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限期間中もあったため、ご家族と直接お会いすることが少なかったが、連絡を密にするなどして関係作りに努めている。日用品の補充や、衣替えのお手伝いなどはご家族にお願いし、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため、前年度に引き続き今年度も外出や面会の制限を行う必要があった。今後は感染状況を見極めながら制限の緩和を段階的に行い、馴染みの人や場所との関係を継続できるよう支援をしていく。	コロナ禍以前は、家族と一緒に外出できる機会を設けたり、友人の訪問を受け入れたりしてきた。現在は感染状況に配慮しつつ、玄関などで交流の機会を作り、外出の機会についても検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がスムーズにコミュニケーションを取れるように、必要に応じてスタッフを交えた会話を楽しみ、利用者間の関係性を常にスタッフが共有している。また利用者同士で声を掛け合い、日常生活の中で助け合う様子が見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長引き、退所となった利用者が出た時は、ご家族や入院先の職員と連絡を取り、経過をフォローできるよう努めた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者とは多く関わりを持つことで、会話の中から本人の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、センター方式を活用したり、ご家族からの情報も参考にして本人本位のケアができるよう努めている。	日々の会話の中で得られる情報から、思いや意向を把握するように努めている。ケースによっては、「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用し、本人本位の支援について検討するように努めてきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や前ケアマネから情報収集し、一人一人の生活歴を把握できるよう努めている。また、入居時は、ご家族にセンター方式を記入してもらうなどして、本人を取り巻く環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で、日々の介護記録の記入を行いながら、個々の状態の変化を共有している。重要なことや大きな変化は申し送り帳に記入し、出勤時にすぐに把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の更新時には、全職員でモニタリングに取り組み、課題とケアのあり方について振り返り、新たな課題やケアを検討している。また、ご家族にも普段の面会時に要望や希望を聞き出し、現状にあった介護計画を作成している。	日々の気付きを、それぞれの視点で記録してもらい、入居者の状況の把握に努めている。職員会議において、各自で取り組んだモニタリングを基に課題を整理している。変化に応じて記録様式を変更するなど柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は、●○を用いて記入し、職員全員で状況の変化に気づけるようにしている。また、個人記録簿の見開き部分に計画書を綴り、計画書に応じた記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会制限期間中でも、入所後で環境に慣れない利用者には定期的に面会をしていただいたり、利用者の希望で、お菓子作りや梅干し漬けをして柔軟なサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、コロナ禍で美容室やスーパーの外出は避けてきたが、月に1度移動スーパーが来て、利用者それぞれ買い物を楽しまれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在本人やご家族の意向もあり、全利用者が協力医院の往診を受けている。協力医と施設看護師は24時間体制で連絡体制が出来ていて、利用者が安心して医療を受けられる体制が出来ている。	看護師が情報を整理し、医師に報告を行い指示や判断を仰ぐようにしている。他科受診は家族対応を主としているが、ホームが対応することもある。メールや電話を活用しており、連携協力体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、利用者の細かな変化に気づき、記録に残すようにしている。看護師は、日々の記録をチェックしたり、申し送りを聴取したりして、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、遅くとも翌日までには入院先の病院に情報を提供し、安心して治療が受けられるように努めている。また、入院中も細目に病院と連絡をとり、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の在り方については、入居時に指針を説明し同意を得ている。入居前の協力医受診の際も、主治医から終末期について意向確認をしてもらっている。	看取りについて本人・家族の意向を確認し、ホームでのケアの方針を決めている。主治医との連携により、今後について直接対話を行う機会を設ける対応も行っている。ホームでの対応については、ケアプランに反映し共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や心肺蘇生法などについて消防士の方から講習を受ける機会を設けた。また、定期的に消防訓練、事故対応の際の訓練を実施し、職員同士で共有できている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施し、全職員が災害に備えている。また、地域の方には、消防車のサイレンが聞こえたら、避難誘導の応援に来てくださるようお願いしている。	自治会や家族を含めて連絡体制を整備し、緊急通報システムへの反映も検討している。停電に備えてカセットコンロや食材を準備している。貯水タンクがあり、水の確保もできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に寄り添った声かけを心がけ、利用者の希望に添えるように努めている。特に排泄介助時の声かけ、対応時は利用者が不快な思いをしないよう意識して支援している。	本人への言葉かけの際の声の大きさ等に配慮している。また職員同士の情報引継ぎの会話や、自己決定・自己選択の対応など、人格の尊重に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの際に思いや希望を引き出せるように努め、利用者本人と話し合いながら日常生活を送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制するような声かけにならないように注意しながら入浴・レクリエーションなどへの参加等を促すようにしている。その際利用者が希望する過ごし方を引き出し、その意思を尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、好みの衣類など利用者本人の希望に沿った服装を一緒に選んでいる。朝は必ずブラッシング等を行い身支度を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特に行事の際は食事メニューの希望の聞き取りを行い、利用者が楽しめるように心掛けている。食事の傾向や利用者との会話の中から好みを把握し、一人一人の希望に沿ったメニューを提供している。	入居者によって、下ごしらえなどの調理の手伝いや、下膳やお盆拭きなどを手伝ってもらっている。おやつやナン、吊るし柿などに一緒に取り組むこともあり、食事を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量について申し送り等で常に職員間で共有し、利用者の好みや、状態に合わせてそれぞれ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	常に見守りを行い利用者の状態に合わせて介助を行っている。また利用者の状態に合わせて液体ハミガキや歯間ブラシ等を利用し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者ごとの排泄パターンを職員間で共有し、声かけでの誘導などで失禁、下着・パット汚染の防止に努めている。また、利用者の状態に応じてリハビリパンツ、パット等の利用を職員間で協議している。	入居者ごとの状況に応じて声掛けなどを行っている。日中は通常の肌着で過ごせるように配慮している。自立している部分と、介助が必要な部分を見極め、入居者ごとに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医院と、利用者の排泄パターン等の状態を常に把握できるようにし、指示を仰ぎながら必要に応じて投薬、飲食物の工夫、運動への働きかけ等を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を設けているが、利用者の体調や希望に沿うようヒアリングを行い、必要に応じて別日に実施するよう変更したり、シャワー浴、足浴などを行うことで利用者に負担にならないよう努めている。	週に2回は入浴出来るように、入居者ごとの状況に応じて対応している。過去には拒否の強い方に対し、センター方式を活用して、本人本位に努め、希望する入浴方式に柔軟に支援したこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間を共有し、必要に応じて午睡してもらったり、足浴・手浴等リラックスできるように支援している。日中の歩行訓練やレクリエーション等で活動することで夜間、自然に入眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が現在内服している薬について既往歴も含め説明書で理解し、変更があった際は申し送りノートに記載と説明書で共有を徹底し状況観察を行っている。服薬介助の際は誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとのイベントを企画し、準備の一部を利用者にも手伝ってもらっている。またご家族や本人から趣味や特技、嗜好などの情報を集め、利用者一人一人の興味や希望に沿った支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今年度はコロナ禍のため外出制限を行なっているが、その中で感染対策を講じた面会を行ったり、電話でのご家族とのコミュニケーションを図れるよう努めている。利用者の意向を尊重して希望があれば職員と近隣を散歩している。	入居者の心身状況に応じて、散歩に行く機会を設けている。オレンジカフェに交代で行くこともある。これまでには、車椅子の方々も花見になど行くこともあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は利用者ごとに事務所で管理し、またその旨を説明している。月に一度の移動スーパーでは本人が買い物をできるように支援し、日常生活で必要なものがある場合は買い物の代行を実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にご家族がいる利用者は個人の携帯電話で毎日電話をできるようにするなど、体調や利用者の希望に合わせて電話でご家族と会話を楽しめるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭にテーブルを出し、カフェのようにして過ごしてもらったり、ホールの掲示板に季節に応じた飾り付けをしたり、お花を飾ったりしている。廊下やホールの電灯は眩しすぎないように調光し、浴室、トイレなどは適温で過ごせるように配慮している。	共用空間は日当たりが良く、屋外に通じる掃き出し窓があり、食事などの際に活用することもある。訪れた家族が見れるように活動の写真が掲示されている他、季節を感じられるような装飾を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル席のほかにソファを設置し、利用者が一人で過ごしたり、数人で座ってテレビを見ながら会話を楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からいただいた花を飾ったり、写真を飾ったり本人が希望する家具などを置いている。またテレビやラジオなどを置いて本人が自由に過ごしやすい環境づくりを行っている。	ベッドとタンスは備え付けである。入居者は自由に使い慣れた物を持ち込むことができ、テレビや椅子、テーブルなどが配置されている。居室において、編み物や読書、おやつなどを楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内に足置き台や手すりを新たに設置し利用者が安全に入浴できるようにした。利用者の状態に合わせてリクライニング機能がついているベッドを使用し、夜間のポータブルトイレを利用する際の置き位置などを職員間で共有し支援している。		